

CAD情報

クラウドサービスを介したコラボレーション機能を強化 設計業務の生産効率を高める『Autodesk 360』

オートデスクのクラウドサービスは、エンドユーザ様の意見や要望をフィードバックしながら日々進化を遂げている。特に大幅に強化されたコラボレーション機能は、設計業務の効率アップに即座に貢献。またサブスクリプション契約を結べば、ストレージ容量が拡張されるばかりでなく、レンダリングサービスなど、クラウドに演算を代行させることもできるので、その効果は倍増する。エンドユーザ様の設計環境を劇的に改善する提案が、クラウド活用をキーワードとして可能になった。

サブスクリプション契約で クラウドの利用範囲が拡大

『Autodesk 360』が目指しているのは、クラウド上にアップロードした設計ドキュメントに、いつでもどこからでもアクセスでき、プロジェクトメンバー同士が情報を共有しながら快適なコラボレーションが行える環境を提供すること。

当初は、DWG、DXF、DWFの3種類のファイル形式のみの対応だったが、現在は『Autodesk Revit』や『Autodesk Inventor』のファイル形式(RVT、NWD)にも対応し、『Autodesk Showcase』で作成した動画なども閲覧できる。PDFファイルも表示可能なので、作業指示書などを現場で閲覧する際にも役立つ。将来的にはオートデスクの全製品のファイル形

式に対応していくことが予想される。

クラウド上で提供されるディスクスペースは、通常は3GBだが、オートデスクとサブスクリプション契約(保守会員契約)を結べば、25GBに拡張される。アカウント登録して提供されたディスクスペースは、オートデスクのすべてのクラウドサービスで共有できる利点もある。また、アカウントごとにディスク領域が独立していてセキュリティ保護されるので、他者に情報が漏れることはない。

Autodesk 360 に保存したドキュメントには、iOS や Android のモバイルデバイスからアクセスできる専用アプリ「Autodesk 360 Mobile」が新たに用意されている。また、「AutoCAD WS Mobile」にはキャッシュ機能が実装されているので、Autodesk 360 内の DWG

Autodesk®

図面をデバイス上に保存しておけば、山奥のダム建設現場など電波が届かない場所でも図面の閲覧などが可能になる。

設計者にとっては、クラウドのリソースを使ってレンダリングが行えることも大きなメリットだ。例えば、これまでデスクトップ上で2時間以上かかっていた処理がわずか5分で済むようになり、作業時間が飛躍的に短縮される。レンダリングサービスは、サブスクリプションに加入している製品によって利用できる回数が異なり、複数の製品がバンドルされているSuite製品の上位エディションになるほど、レンダリングサービスを利用できる回数も増えるので、レンダリングを頻繁に行いたいエンドユーザ様には、Suite製品の上位エディションがお勧めだ。

コメントや写真も添付できる 快適なコラボレーションを実現

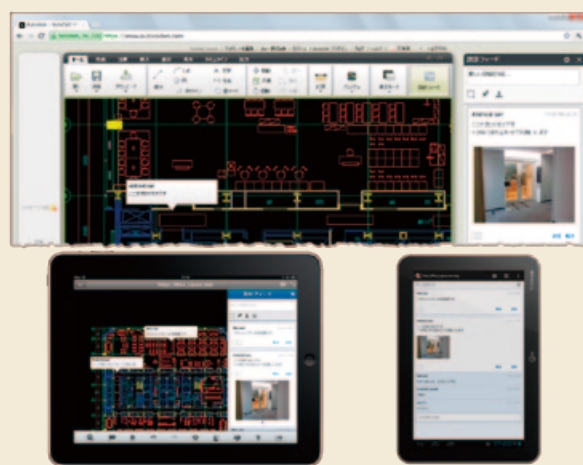
『Autodesk 360』は常に進化を続けており、特にコラボレーション機能が大幅に強化されている点が、パートナー様がエンドユーザ様に提案する際の重要なポイントになる。通常のデスクトップ製品では実現できない機能が活用できるので、特に『AutoCAD LT』を使っているエンドユーザ様には非常に大きなメリットになるはずだ。

■クラウドを利用した設計環境へのメリット

- 1 いつでも、どこからでも図面・設計図書にアクセス**
クラウドに保存することでデータ中心の設計環境を実現
- 2 スマートフォン、タブレットなどのモバイル デバイスの活用が可能**
印刷出力した紙図面の持ち出しが不要、あるいは 大幅低減
- 3 複数の設計者間で図面の共有やオンライン コラボレーションを実現**
明示的に指定したメンバーでクラウド上の図面を同時に閲覧、協調編集
- 4 クラウド リソースを集中利用してデスクトップPCを演算負荷から解放**
高負荷なレンダリングや解析演算をクラウドに代替させて手元の作業を継続

AutoCAD WS の新機能 「設計フィード」で 一歩進んだ コラボレーション

- ・図面内の点、領域に「投稿」を書き込み可能
- ・図面共有時にコラボレーション機能としても機能
- ・投稿内にはモバイルデバイスで写した画像やURLリンクを埋め込み可能



例えば、コラボレーションしたい相手のメールアドレスを入力して共有すると、その相手にメールで通知され、図面などを閲覧できる権限が与えられる。同じ図面の特定の領域だけを見せながらチャットなどを交えたリアルタイム・コラボレーションが可能になる。相手にダウンロードや編集をさせないといった権限設定も行えるので機密情報も保たれる。

さらに『AutoCAD WS』の最新版には、「設計フィード」という強力なコラボレーション機能が新たに実装された。「設計フィード」では、図面内の特定の位置にメンバーがコメントを複数個、投稿でき、投稿をスレッド化してのディスカッションや、解決済みの投稿を隠して見やすく整理することもできる。設計フィードの親投稿

には、コメントだけでなくモバイルデバイスで撮った写真も記載可能。例えば、現場の写真を投稿して図面どおりに作業が行われていないことをコメントで指摘するなど、図面内の特定箇所と現場を、リアルタイムに直接結び付ける、一歩先をいくコラボレーションが現実となる。

「実際にコラボレーションのデモを見たエンドユーザ様は、すごく便利だと感心されます。サブスクリプション契約の下に特定のデスクトップ製品でしか利用できないクラウドサービスも存在するので、当社のクラウドサービスに興味のあるお客様には、製品と一緒にサブスクリプション契約を、ご提案していただければと思います」と

テクニカルスペシャリスト デベロッパリレーションマネージャー伊勢崎 俊明氏は語る。従来の設計業務のワークスタイルを大きく変革するオートデスクの『Autodesk 360』を活用し、パートナー様のビジネスにお役立ていただきたい。BP



テクニカルスペシャリスト
デベロッパリレーションマネージャー
伊勢崎 俊明氏

いつでも、どこからでも
図面・設計図書にアクセス
**オートデスクの
クラウド サービス**

